

特集

みんなのための家

ゆいまーる

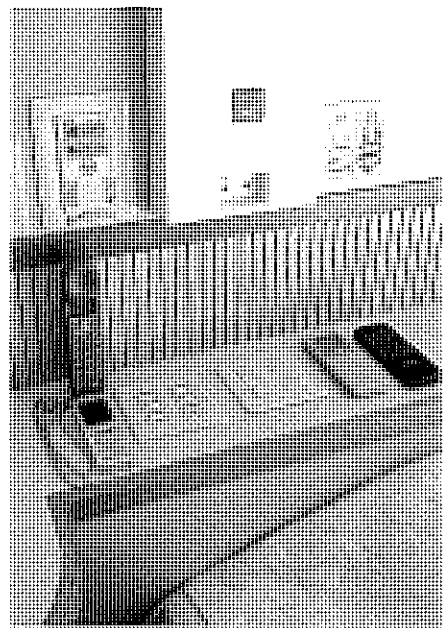
設計 福村俊治+空間計画VOYAGER

施工 阿波根組

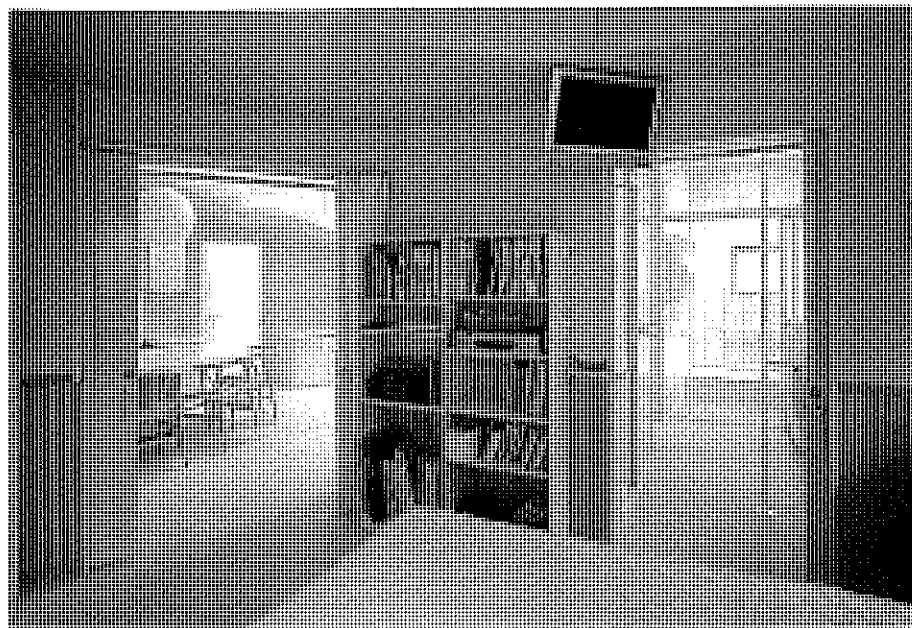
所在地 沖縄県沖縄市







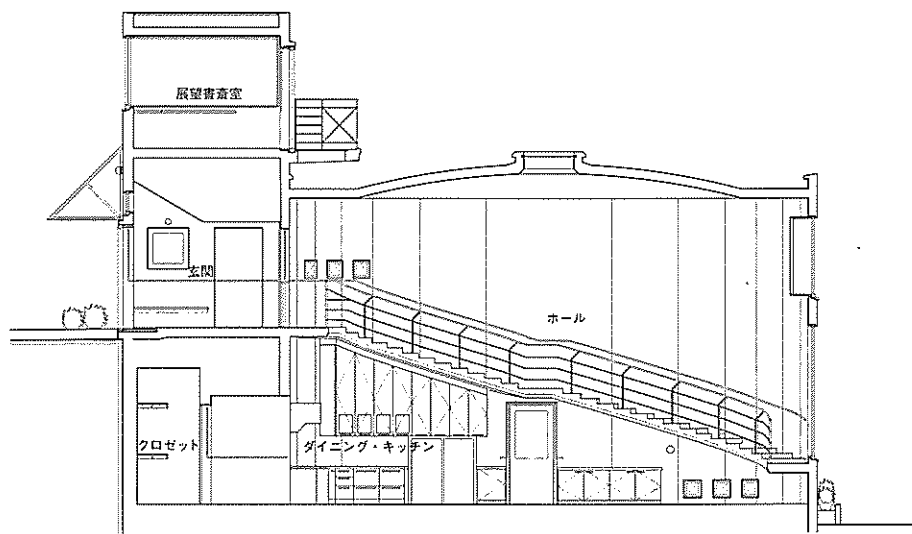
寝室の枕元には照明をはじめすべての設備関係のスイッチが集中している



寝室より左にダイニング・キッチン、右にトイレ・浴室を見る

「ゆいまーる」とは、「相互扶助の精神」を意味する沖縄の言葉である。つまり、厳しい自然や社会の中で老若男女すべての人びとが平等に助け合い、支え合いながら楽しく生きていこうとする生活の術である。「バリアフリー」という言葉がある。高齢者や身体障害者が生活していくうえで障害をなくすこと、つまり、段差をなくし手摺をつけ、身障者のための設備機器などの物理的なものは当然のことであり、より大切なのは、ハンディをもつ人と、他の人びととの間にあった精神的な壁をなくし、同一の社会や建物の中で支え合い生きていくことこそが「バリアフリーの精神」のもっとも大切なところであると考えられる。

家主は、1936年生まれ、沖縄戦・戦後の米軍支配・日本復帰などの激動の沖縄で、教職に就き家族を支え生きてきた。しかし、17年前の50歳のとき、突然倒れ、体の自由を失った。長期の入院と小さな家に引きこもった療養生活は、いつの間にか社会と本人の間に大きなバリアができ、多くの友人と知人、教え子との交流の機会を失い、そして最愛の両親も亡くした。そして、毎日がヘルパーさんの助けに頼る単調な生活であった。ある日、自立して生きていける家づくりを思い立ち、涙ぐみながら設計を依頼してきた。そして、65歳の半身不随でひとり住まいのその女性は私にこれまでの人生と日常生活の一部始終を語り、設計が始まった。私は、その住宅を一見してわかるバリアフリーの住宅ではなく、多くの人びとが訪れ、支え合いながら自分が身障者で



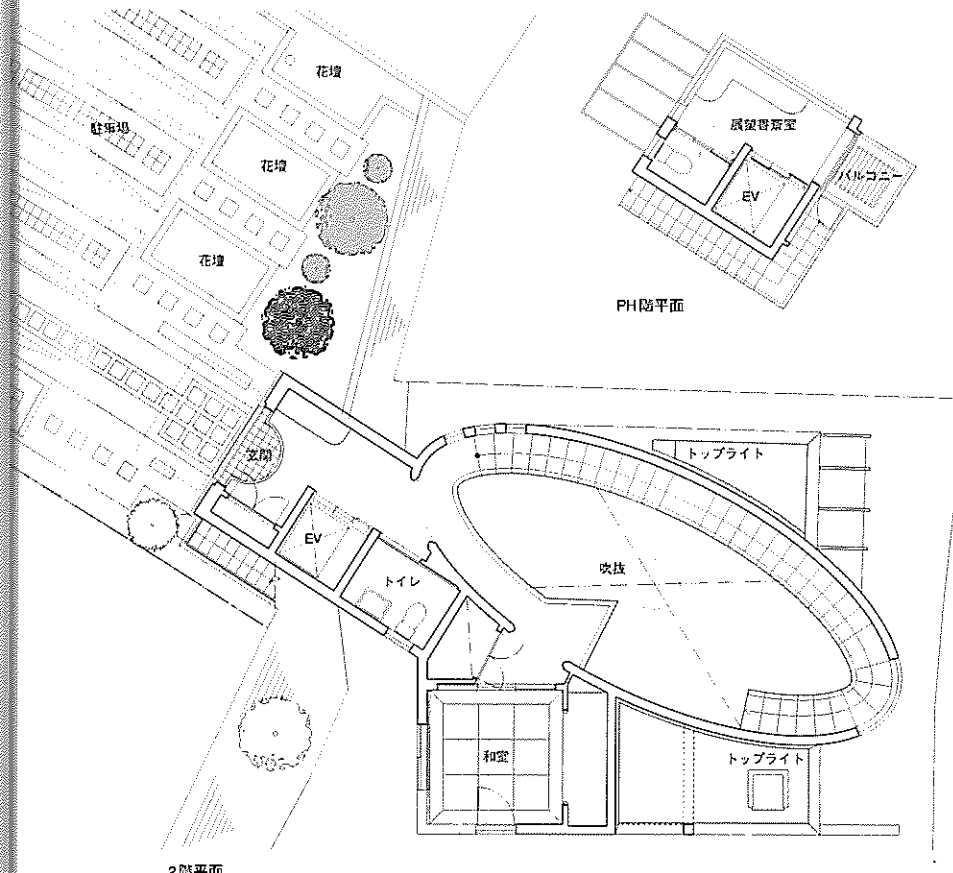
東西断面 縮尺 1/150

あることを忘れて楽しく生きていけるような美しい住宅をつくらうとした。敷地は沖縄本島中部の高低差の激しい住宅密集地の一角にある4mの段差のある不整形の敷地。高いほうの敷地のレベルに駐車場と玄関と和室、低いレベルには、ダイニング・キッチンをもつ楕円形のホール、主寝室、バスルーム、勝手口などの主要室を設け、それらは大きな吹抜けと長く緩やかな階段とホームエレベータで結ばれている。玄関上部の3階には、展示室を兼ねたガラス張りの書斎がある。

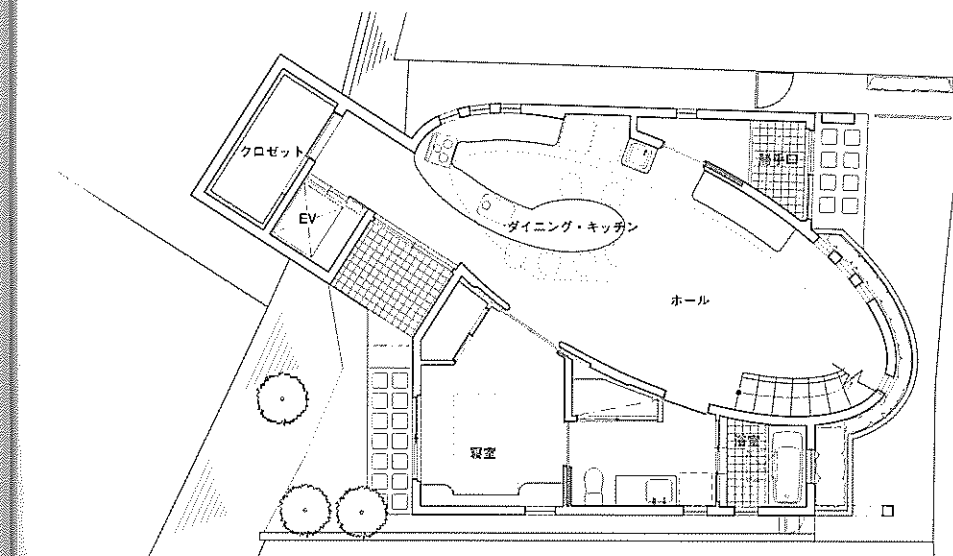
ホールの螺旋階段は、両側に手摺のあるリハビリ用の階段でもある。天井中央には円形のトップライトがあり、そこから陽が射し込み室内を巡る。ダイニングテーブルと一体となったキッチンカウンター前に家主

は座り、接客や食事、テレビや音楽を楽しみながら一日の大半をここで過ごす。トイレは各階にあり、オール電化で、玄関や勝手口のオートロック、外部に緊急を知らせる非常用ボタンなどもある。寝室の枕元には照明をはじめすべての設備関係のスイッチが集中している。手摺は家中に設置されているが、目立たないようにしている。一日中照明と空調をつけていた以前の木造平屋住宅の暮らしたと、明るくて広く、来客の多い今の暮らしの様変わりには激しい。65歳で残りの人生を家づくりに賭けた決断は正しかったようだ。(福村俊治)

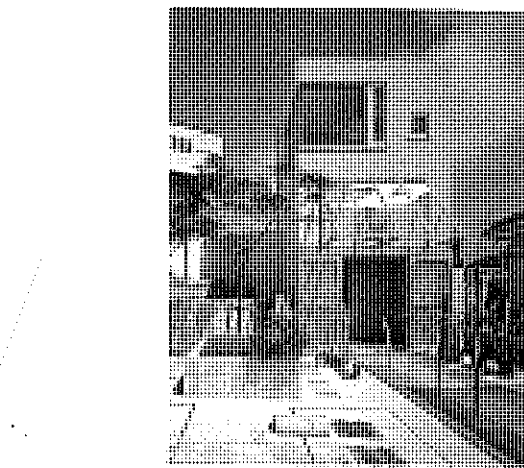
68頁 南東側からの俯瞰。敷地は東と西で約4mのレベル差がある。メイン玄関は駐車場のある西側で、2階からのアプローチとなる。69頁 楕円形平面のホール。上部にトップライトが設けられている。天井高は最高で6.550mm。70~71頁 ホールよりダイニング・キッチン方向を見る。段上げ10cmの螺旋階段はリハビリ用として設けられたもの



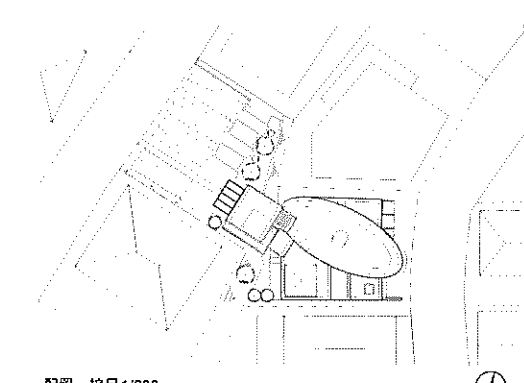
2階平面



1階平面 縮尺 1/150



玄関。ベンチが備えられている。左はホーム用エレベータ



配置 縮尺 1/500

■ゆいまーる

所在地/沖縄県沖縄市
 主要用途/専用住宅
 家族構成/1人
 設計 福村俊治+空間計画VOYAGER
 担当 福村俊治 比嘉裕隆
 構造 バス建築研究室+西建築設計事務所
 設備 Cai設備 担当 喜良洋三
 サイン HILOデザイン研究所 担当 小畑広永
 施工 阿波根組 担当 名嘉照元 友利優也
 設備 不二宮工業 担当 仲村裕徳
 電気 球電舎 担当 前田盛淳
 構造・構法 壁式鉄筋コンクリート構造
 基礎 布基礎
 規模

地上2階+PH
 軒高 11,200mm 最高の高さ 11,500mm
 敷地面積 251.28㎡
 建築面積 80.09㎡ (建築率31.87% 許容 50%)
 延床面積 130.74㎡ (容積率52.02% 許容 100%)
 1階 75.39㎡
 2階 45.74㎡
 PH階 9.61㎡

工程
 設計期間 2000年8月~2001年3月
 工事期間 2001年4月~2002年3月
 敷地条件
 道路幅員 東4.3m 西4.7m 駐車台数4台
 工事費
 建築 23,800,000円
 電気 2,000,000円
 衛生 3,500,000円
 外構 1,700,000円

総工費 31,000,000円
 坪単価 730,000円(外構含まず)
 外部仕上げ
 屋根/コンクリートスラブ ウレタン防水スタイロフォーム断熱の上押えモルタルt=40mm
 外壁/コンクリート打放し補修 アクリルシリコン系複層仕上げ塗材ゆず肌ホーロー仕上げ
 開口部/アルミサッシ(シルバー)
 外構/コンクリート全ゴテ 刷毛引き仕上げ一部玉砂利洗い出し仕上げ タイル貼り
 内部仕上げ
 ホール・ダイニング・キッチン
 床/テラフロア敷き
 壁・天井/コンクリート打放し補修 UE塗装
 寝室
 床/テラフロア敷き
 壁/PB t=9mm UE塗装
 天井/ペニヤt=9mm張り UE塗装

展示室
 床/テラフロア敷き
 壁/コンクリート打放し補修 UE塗装
 天井/コンクリート打放し補修 UE塗装 一部岩綿吸音板張り
 設備システム
 空調 冷暖房方式/ヒートポンプ式エアコン
 給排水 給湯方式/電気温水器
 排水方式/合併浄化槽下水道放流
 その他 昇降機:ホームエレベーター3人乗用(三菱日立ホームエレベーター)
 主な使用機器
 衛生機器/TOTO
 厨房機器/ナショナル
 照明/ナショナル コイズミ オーデリック
 建築金物/美和・スガツネ
 撮影/本誌写真部 井上登



ホールより寝室方向を見る。出入口部分には手摺がゲート状に回されている。扉は車椅子でも使いやすいように2枚引きで両側に引き込まれる



最上階に設けられた展望書斎室

特集 みんなのための家

手摺

半身不随の家主にとって、家中に手摺が巡ることは大切である。特に出入口には、垂直の手摺が要望された。手摺の存在を目立たなくするために少し細めにし、壁と同色とした。出入口上部もつなげゲート状にし、壁の水平の手摺と連続させた。

展望書斎

外へ出歩くことが難しい家主にとって、日の出や日没や遠景を眺めることのできる書斎は気分転換の場である。

床材

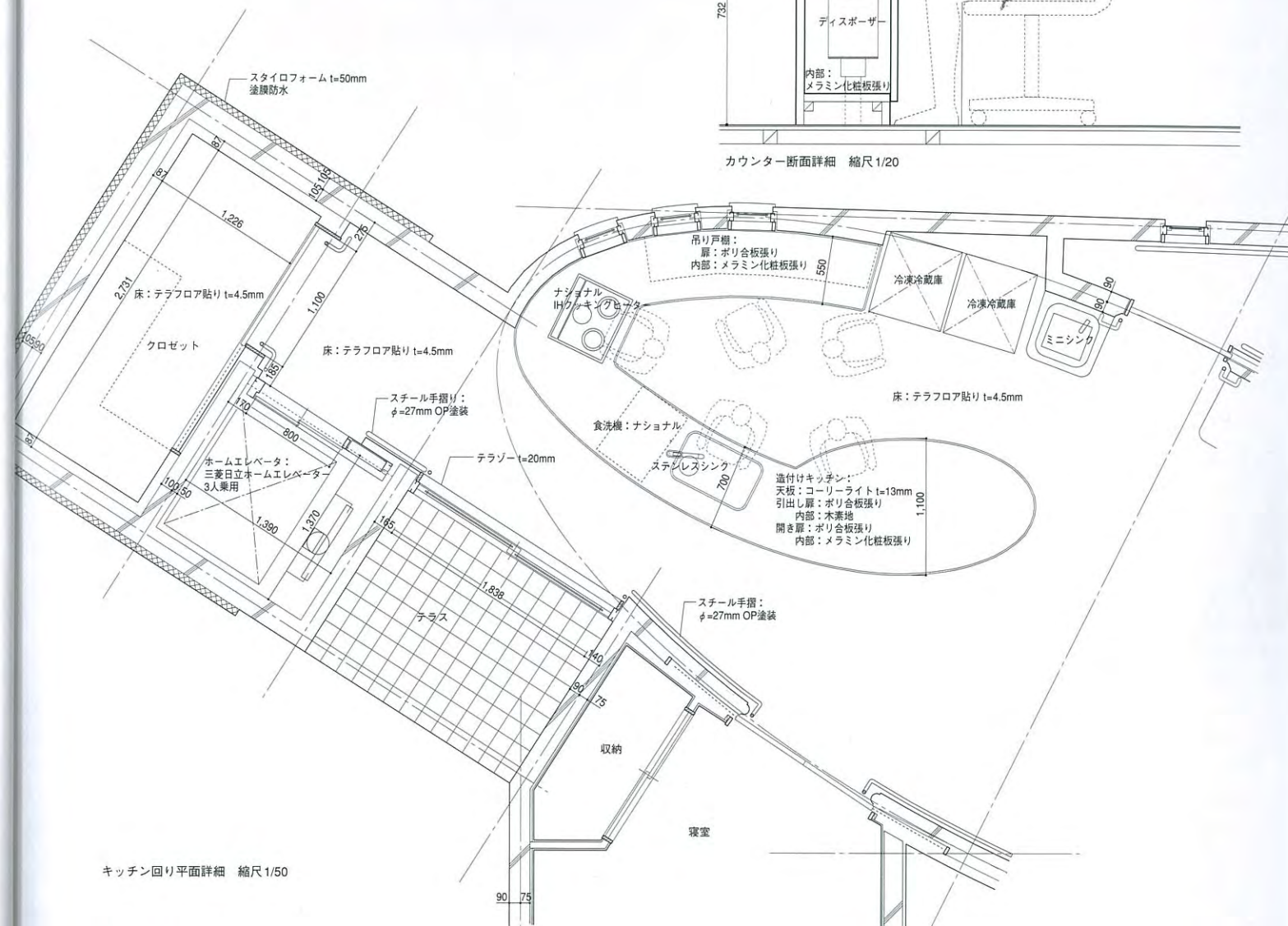
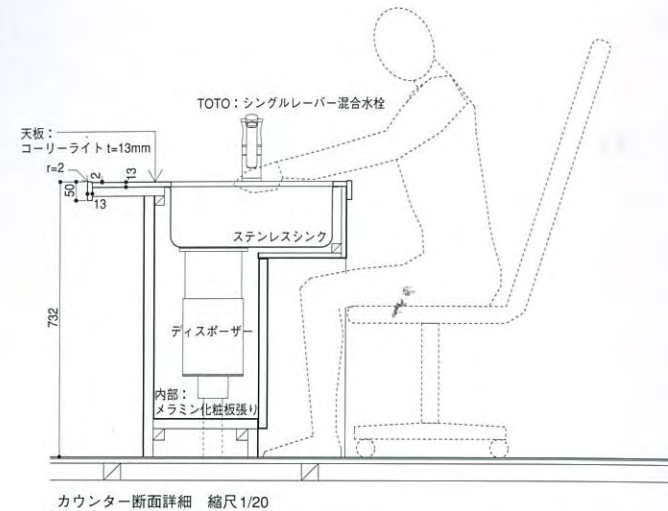
床材は滑りにくく、かつ、足触りのよいジュート麻の織物床。



キッチン・ダイニング回り俯瞰。家事をしやすいうにカウンターはカーブを描いている

水回り

食器棚、流し台、食卓を一体化し、造付けとした。家主は一日の大半をここに座り過ごす大切な場である。IHヒーターやディスポージャー、食洗機がある。車椅子でも使いやすいように低い冷蔵庫を2台置いた。



ホール

楕円形の吹抜けの大きいホールは、家主の日常生活の場であると共に、知人、友人が訪れ語り合う「ゆいまーる」の場である。時には、家主の所属する教会信者の集まりの場や、知人・友人とのパーティの場となる。

トップライト

ホール中央のトップライトからは太陽の陽射しや月光が内壁を巡る。時間や天候、そして、季節などの外界の自然の移り変わりを住み手に伝える窓口でもある。また光の変化に対応して、このホール空間の雰囲気は大きく変わる。

螺旋階段

蹴上げ10cmの緩やかな長い螺旋階段はリハビリを目的として設置したが来訪者にとっては、ホールの大きな美しい吹抜け空間を体感する感動の仕掛けでもある。ホームエレベータもある。(74~75頁のディテール解説/福村俊治)



竣工時に行われたパーティ。ホールには大勢が集うことができる

写真提供/福村俊治